

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 3 - 59)

件名	制御盤スイッチの誤触による警報の発報								
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 ウラン脱硝建屋: ウラン脱硝塔</p> <p>(2) 発生の状況 脱硝塔運転中</p> <p>(3) 概要 ウラン脱硝塔の運転中に、制御室の操作員が脱硝塔加熱ヒータの温度制御情報を確認するため、操作画面を開いたままにしていたところ、その制御盤上で別の操作員が過去のデータを確認するため書類(ファイル)を開いた際、手動モードへの変更部分を誤触し自動制御から手動モードに切り替わり、温度低の警報が発報し、脱硝塔への硝酸ウラニルの供給が停止</p> <p style="text-align: center;">* 他の建屋も含め同種の機器においても、同様な事象の発生が予想される。</p>								
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 ウラン脱硝建屋の塔槽廃ガス処理設備が稼働している脱硝塔内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 インターロックにより硝酸ウラニルの供給を停止することから、これ以上事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 事象は脱硝塔内部で発生し且つ正常状態の復旧は放射性物質を直接扱わないため、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 硝酸ウラニルの供給再開は、数時間で実施できるため、上流の工程との中間にある一時的な貯留槽の残液量が十分であり他工程への影響は生じない。</p>								
対応の概要	<p>(1) 温度制御状態を手動モードから自動モードに切り替える。</p> <p>(2) 通常運転に戻すため温水供給から硝酸ウラニル供給に切り替える。</p> <p>(3) 運転状態の監視を継続する。</p>								
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)								
対応区分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="width: 30%; vertical-align: middle;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない) </td> <td rowspan="5" style="width: 30%; vertical-align: middle;"> 放射性物質の外部放出 工場外への影響 </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> </tr> </table>	(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない)	放射性物質の外部放出 工場外への影響	(b) 運転システムを切り替えて復旧	(c) 当該機器を停止して復旧	(d) 当該設備を停止して復旧	(e) 影響範囲の設備を停止	<p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p>放射性物質による汚染、被ばく等 多重防護の劣化 運転制限範囲からの逸脱等</p>
(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない)	放射性物質の外部放出 工場外への影響							
(b) 運転システムを切り替えて復旧									
(c) 当該機器を停止して復旧									
(d) 当該設備を停止して復旧									
(e) 影響範囲の設備を停止									

